

魅力発見 千葉県立千城台高校の取組

コロナ禍における安心安全の確保に係る取組

1. 目的

安心安全な学校生活の確保
適切な感染防止対策による学びの継続

生徒は、登校前に学習支援ソフトを活用し、その日の健康状態を学校に報告します。登校後は、生徒昇降口前に設置されているサーモグラフィ(写真)で再び体温を確認します。生徒は自身の体調管理をしっかり行うという自覚と責任により、安心安全な学校生活を自分たちの力で確保しています。

写真



写真は、昼休み中の生徒の昼食風景です。本校では、昨年度から飛沫防止カードとフェイスシールドを導入して、感染防止対策を行っています。生徒は現状を適切に理解し、新型コロナ感染状況が落ち着いている現在でも、飛沫防止ガードを活用し、「黙食」継続中ですが、昼休みには、放送委員による、お昼の放送も流れていますし、食事を短時間で取り、すぐにマスクを着用して会話を楽しんだり、友人と勉強を教え合ったりする光景は、千城台高校らしい明るい昼休みです。

写真



写真は、千城台高校のとある授業風景です。授業中も飛沫防止ガードを使用しています。生徒は、もちろん不織布マスク着用しています。ちなみに、写真には写っていませんが、グループワークなどの学習活動では、フェイスシールドを着用しています。

千城台高校は、コロナ禍であっても、学びを止めません！安心して授業を受けるためにも、気を抜かずに取り組んでいるところが、千城台高校の魅力とも言えます。

写真



2. 成果

徹底した体調管理により、安心安全な学校生活意識の醸成はもとより、自身の体調を把握することは、他者の安心安全を確保することにも繋がるということを理解することができた。

3. 準備・実施段階の工夫

- ・サーモグラフィの設置については、生徒が毎朝必ず通る場所への設置を検討
- ・飛沫防止ガードについては、学習及び食事に支障のないサイズの選定

4. 広報・報道実績

新型コロナウイルスをテーマにした学級新聞の作成に係る取組が千葉日報で紹介

5. 取組への反響(生徒の声等)

適切な健康管理や感染防止対策は、WITHコロナ時代のライフスタイルとして、当然のことであることが理解できた。

6. 今後の方向性

健康管理や感染防止対策としての様々な取組は、今後も継続実施

を自分たちの力で作るという、生徒の

快適な学校生活を送るための生徒の自主的な取組

1. 目的

生徒の自主性の育成

生徒が学校運営に携わるという意識の醸成

写真 は、職員や生徒が自由に使用できる消毒液です。この消毒液の設置については、生徒や職員がコロナ禍の中、安心して学校生活を送ることができるように、生徒の発案で、生徒総会を経て要望書を提出したことから、昇降口や教室前廊下に設置が決定しました。

しかし、消毒液の取り扱いには危険も伴うということで、安全に管理することなどについても細かく検討されました。

千城台高校は職員と生徒が一丸となって、コロナ感染防止対策に取り組んでいます。

写真 は、千城台高校の女子の制服です。昨年度からスラックスが導入されました。このスラックスの導入についても、生徒からの、性別による固定概念にとらわれることなく、生徒が自分らしく学校生活を送ることができるようにという、ジェンダーレスの観点からの要望により、現実に至ったものです。着用率も高く、生徒や職員からも好評です。

千城台高校の生徒の行動力は、誰もが過ごしやすく、学びやすい学校づくりに大きく貢献しています。また、千城台高校の生徒の行動力は、学校を良い方向に変える大きな力となっています。ちなみに、今年度は、生徒からの要望により、スラックスを着用する生徒はリボンかネクタイを選ぶことができるようになったため、女子の制服にネクタイが導入されました。

写真 は、要望書を提出する生徒会長とそれを受け取る校長先生の様子です。

千城台高校は生徒一人一人の意見を大切にしながら学校運営が行われています。



写真

2. 成果

生徒が自分らしく学校生活を送ることができるようになった。また、それを受け入れる側の意識の醸成を確立することができた。

3. 準備・実施段階の工夫

生徒の要望を生徒会が集約及び精査、取扱い等についての検討など

4. 広報・報道実績

新型コロナウイルスをテーマにした学級新聞の作成に係る取組が千葉日報で紹介

5. 取組への反響(生徒の声等)

自分らしく学校生活を送ることができるようになった。今の時代に必要な取組であると思う。

6. 今後の方向性

- ・感染防止対策としての様々な取組は今後も継続実施
- ・制服の適切な取扱いについて検討



写真



写真

コロナ禍における1・2学年の魅力ある取組

1. 目的

時間の有効活用及びコロナ禍における学びの継続

写真

2学年では、緊急事態宣言中の時差登校で生じる、朝のSHRまでの数十分を「朝読」の時間として活用しています。

(写真)

生徒は、自分の読みたい本を用意して、毎朝、ほんの僅かな時間であっても好きな本から、知識を吸収しています。

写真・ は教室前廊下に設置された貸し出し文庫から「朝読」のための本を選ぶ生徒の様子です。

この貸し出し文庫は、職員や生徒が、読み終えた本を持ち寄ったことで、誰でも、いつでも好きな本を読むことができる空間が生まれました。

今話題になっている最新刊の本が棚に並んでいてビックリすることもあります。

この文庫本の数であるため、生徒はその日の気分に応じて、毎朝、本を選ぶことができます。ちなみに、担任の先生も生徒と一緒に「朝読」中です。生徒の中には、この「朝読」期間に数十冊の本を読んだ生徒もいるようです。

また、1学年では、時差登校で生じる朝のSHRまでの時間を活用し、「コラムを読もう」という取組を行っています。漢字の読み・言葉の意味を調べ、自身の意見を記述します。

論文対策に役立つことはもちろん。授業前の僅かな時間ですが、心を落ち着けて、1時間目の授業に臨むことができます



写真



写真

2. 成果

・朝の僅かな時間であっても、継続することで、生徒が興味関心を持つ内容についての知識を習得することが可能となる。

- ・時間を有効活用することの重要性について理解することができる。
- ・落ち着いた気持ちで授業に臨むことができる。

3. 準備・実施段階の工夫

・緊急事態宣言中の時差登校で生じる、朝のSHRまでの数十分を活用について職員と生徒が検討

- ・教室の廊下前に設置されている貸し出し文庫を有効活用し、朝の読書活動を行うことを決定

4. 広報・報道実績

新型コロナウイルスをテーマにした学級新聞の作成に係る取組が千葉日報で紹介

5. 取組への反響（生徒の声等）

- ・落ち着いて授業に臨むことができるようになった。
- ・進路についての調査を行うことができた。自身の進路に真剣に向き合う時間を作ることができた。

6. 今後の方向性

- ・時差登校の終了に伴い、「朝読」の活動を一時休止
- ・読書活動の時間を設定することについて検討中

千城台高校3学年の魅力ある取組 Part1

1. 目的

ボランティア精神の醸成

【フードドライブ活動】

3学年の生徒は、学校での学習だけでなく、校外でも魅力ある取組を実践中です。具体的には、地域と密着したボランティア活動です。生徒は、この取組により、人間としても大きく成長しています。ここで、1学年の時から、様々な取組を生徒と企画している3学年主任のE教諭のコメントです。

E 学年主任：

生徒に学んでもらいたいことは、感謝の心です。相手の立場を理解し、相手の立場を理解することで、生徒自身も成長してほしいと思っています。

写真 は若葉区福祉協議会に食品を寄贈している様子です。食品を寄贈するという取組だけでなく、生徒は、フードバンクちばの代表の方から、フードドライブ活動をとおして、食品ロスや貧困問題について学びました。

各クラスで、ポスター等を作成し、生徒から未使用食品の持ち寄りについて呼びかけました。約6ヶ月間のフードドライブ活動をとおして協議会に未使用食品を寄贈しました。

写真 は家庭にある未使用食品持ち寄りを呼びかけるポスター

【こども食堂でのボランティア活動】

写真 は、子ども食堂で調理の補助をする生徒の様子です。千城台高校の近隣にある、こども食堂では週に2回、午後4時30分から午後7時に食事を提供しており、小学生が利用しています。

活動内容は、机や椅子、ドアなどの消毒、配膳や食材運びです。緊急事態宣言中は活動が自粛されてしまいましたが、現在も継続して行っています。

写真 は、子ども食堂を利用する小学生に算数を教えている生徒の様子です。子ども食堂のボランティアでは、消毒や調理に関することだけでなく、小学生の宿題の手伝いも活動の一つです。

最初は戸惑い気味の生徒たちですが、すぐに適応できるのは、千城台高校の生徒の強みです。ただ、作業をするだけでなく、小学生に話しかけたりしながら、生徒はコミュにケーション能力も身につけていきます。

【フードドライブ活動に参加した生徒の声（生徒A）】

食品ロスと貧困問題についてフードドライブ活動を通して学び、コロナ禍の現在、フードドライブを行なうことの必要性を感じました。なぜなら講義の中で食料を必要としている人達の実状と廃棄されている食品の量を知ったからです。この現状を目の当たりにすると人ごとではなく、少しでも寄り添いたい気持ちが浮かび、私たちができることはないかと考えるようになりました。

【子ども食堂でのボランティア活動に参加している生徒の声（生徒B）】

当初は、何をしたいのか分からずに戸惑いましたが、今では、自分で考えて行動できるようになりました。子ども食堂は、近隣の方が持ってきてくれる食材で成り立っています。多くの方の善意で成り立っているこの場所で活動できることに感謝しています。

写真



写真



写真

写真



千城台高校3学年の魅力ある取組 Part2

【高齢者施設でのボランティア活動（草取り編）】

写真は、千城台高校の近隣に所在する高齢者施設で草取りを行う生徒の様子です。

千城台高校の近隣に所在する高齢者施設では、草取りなどの作業も、職員の方が行っているということを知り、高齢者の方のお世話と同時に草取りなどの作業などを同時に行っている職員の方のお役に立てればという思いで始めた活動です。

作業が終了すると、職員の方からの感謝の言葉はもちろんですが、施設に入所する高齢者の方からも感謝の言葉をいただいています。



写真

【服のチカラプロジェクトへの参加】

現在、3学年では、「ユニクロ・GU」による服のチカラプロジェクトに参加中です。

1学期にユニクロの社員の方の出張授業が行われました。服のチカラプロジェクトの目的を説明していただき、生徒が具体的にを行う活動を指導してもらいました。

企業として世界に社会貢献するという考え方がグローバルな視点であると聞き、服のチカラで世界を幸せにする精神と、発信力と行動力には驚かされるばかりでした。

3学年では、その活動に少しでも関わることができればという思いでこの活動に取り組むことに決定しました。

集める服は子供服です。目的は国の内戦などで住む場所をおわれた難民の方に服を贈り、安心安全を届けること、期限は11月までです。

3学年は、様々なボランティア活動をとおして、小さな活動の積み重ねが大きな成果につながることを学びました。今後も自ら行動を起こせる生徒の育成を続けます。

右の写真は、社員の方から、服のチカラプロジェクトについて、説明を受ける生徒の様子です。

趣旨を正しく理解し、現在活動を継続中です。

多くの子ども服が持ち寄られています。



2. 成果

- ・生徒は、自主性や協調性身につけることができた。
- ・多くの人たちと関わるボランティア活動をとおして、適切なコミュニケーション能力を身につけることができた。時間を有効活用することの重要性について理解することができる。
- ・自主的にボランティア活動に参加する生徒が多く見られる。

3. 準備・実施段階の工夫

生徒が興味関心を持ちやすいボランティア活動の選定

4. 広報・報道実績

新型コロナウイルスをテーマにした学級新聞の作成に係る取組が千葉日報で紹介

5. 取組への反響（生徒の声等）

- ・ボランティア活動をとおして、社会情勢についての理解が深まった。
- ・相手の立場に立って物事を考えられるようになった。自主的に行動できるようになった。

6. 今後の方向性

- ・服のチカラプロジェクトの参加を継続実施
- ・その他のボランティア活動の参加について検討中



千葉市・首都圏



皆さまからの情報をお待ちしております。
E-mail: c-nippo@chibanippo.co.jp

本社編集局

TEL 043(222)9215
FAX 043(224)7001

船橋・習志野支局

TEL/FAX 047(430)5400
●船橋市
●習志野市
●八千代市
●白井市

市川支局

TEL/FAX 047(395)2700
●市川市
●浦安市
●鎌ヶ谷市

柏・松戸支局

TEL/FAX 04(7155)7171
●柏市
●我孫子市
●野田市
●松戸市

“コロナ社会”新聞に

千葉市 五輪や環境影響捉え執筆

千葉市若葉区の千城台高校の1年生が、新型コロナウイルスをテーマにした学級新聞を作った。感染拡大と経済構造の関係、東京五輪・パラリンピック延期によるスポーツ界への影響

など各生徒がそれぞれの切り口で記事を執筆。優秀な作品には校長賞が贈られ、担当教諭は「新型コロナウイルスが社会現象を多角的に捉える教材となった」としている。

「人間の欲がコロナウイルスになったのでは？」校長賞第一席を受賞した大川蓮奈さん(16)は、過度な経済活動が新型コロナウイルスの背景にあるとして、森

林破壊などが繰り返される地球環境の危機に目を向け、担当教諭が社会の出来事を受けて企画

する必要があると説いている。他にも中原孝依さん(16)は新型コロナウイルスとLGBT(性的少数者)の関係、渡辺知香さん(16)は新型コロナウイルスに抱く不安な感情を紹介した。大川さんは「新型コロナウイルスの発生をこれまでの常識や価値観を見直す機会にするべき」と話した。

新型コロナウイルスをテーマにした学級新聞の作成が令和2年8月15日(土)の千葉日報で紹介されました。

感染拡大と経済構造の関係、東京オリンピック・パラリンピック延期によるスポーツ界への景況など、各生徒がそれぞれの切り口で記事を執筆しました。

優秀な作品には、校長賞が贈られました。

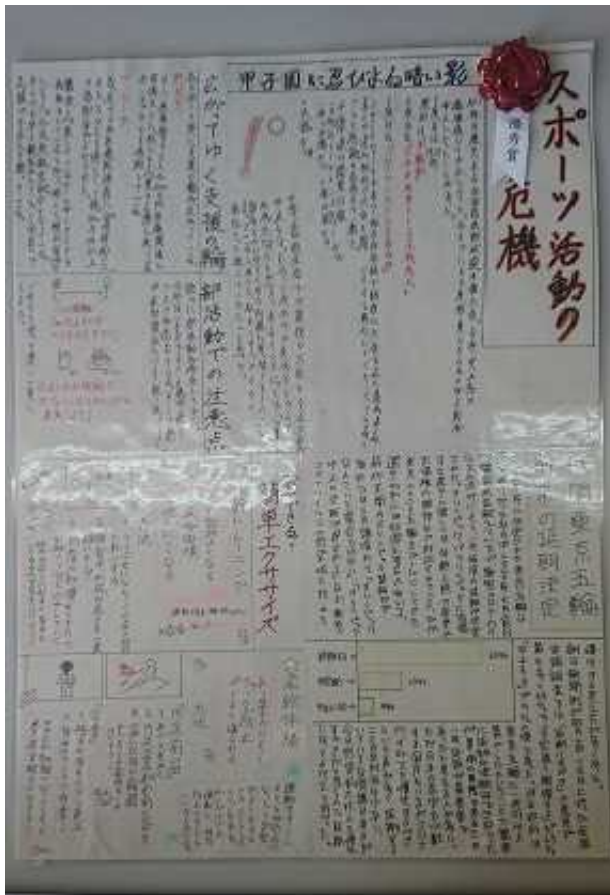
生徒の取組状況も大変良く、新型コロナウイルスが社会現象を多角的に捉える教材となりました。



校長賞第一席を受賞した生徒の学級新聞では、

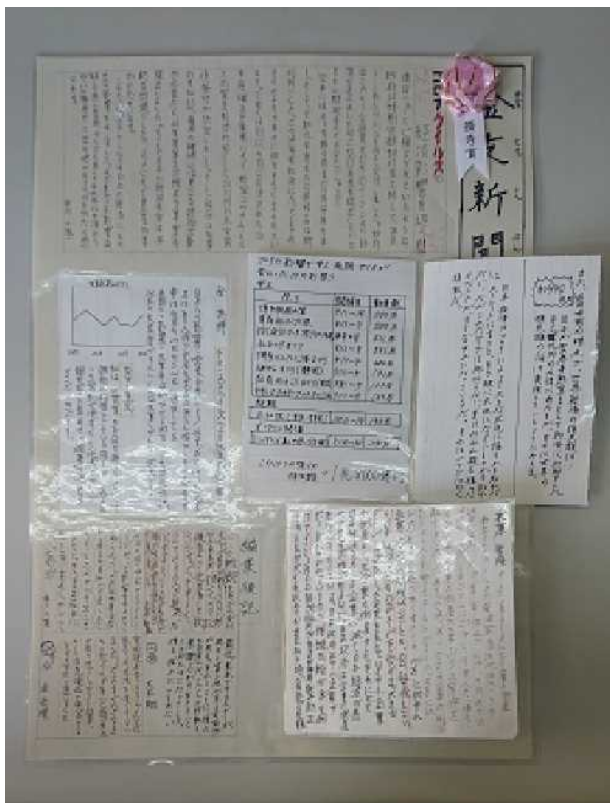
「人間の欲がコロナウイルスになったのでは？」という仮説のもと、過度な経済活動が新型コロナ発生の背景にあるとして、森林破壊などが繰り返される地球環境の危機に目を向ける必要があると説きました。

千城台高等学校 優秀賞 受賞作品



優秀賞を受賞した左の写真の学級新聞では、
 コロナウイルスによるスポーツ活動の危機を
 題材とし、全国高校野球選手権(甲子園)が過去
 に中止になった経緯について調査するとともに、
 部活動再開の際の注意点、自宅で簡単にできる
 エクササイズについても取り上げました。

千城台高等学校 優秀賞 受賞作品



同じく優秀賞を受賞した左の写真の学級新聞
 では、コロナウイルスによる経済への影響を題材と
 しました。

緊急事態宣言の発令に伴い、中止になった
 イベント等の損失額や企業の倒産、就業者への
 影響についても調査しました。

本来の新聞にはない、見開き箇所も高評価の対
 象だったようです。